

会 議 録

会議の名称	第4回 本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会
開催日時	令和4年12月26日(月) 午前・午後10時00分から 午前・午後 0時 5分まで
開催場所	本庄市役所 2階 職員厚生室
出席者	審議会部会：松本部会長、田島副部会長、山田部会員、 山崎部会員、逸見部会員、飯野部会員、高橋部会員、 林部会員、田中部会員、工藤部会員、早野部会員、 川田部会員 事務局：【教育委員会事務局】高橋事務局長 【教育総務課】笠原参事兼課長、新井副参事、 関根課長補佐、松島主任 【学校教育課】岡芹課長、瀧澤課長補佐、 大澤課長補佐 【企画課】荒井主任 コンサル：東日本総合計画株式会社 喜渡、大山
欠席者	なし
議題 (次第)	1 開会 2 あいさつ 3 議題 ①本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考 え方について 4 その他 5 閉会
配付資料	・第4回本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会次第 ・本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会 部会員名簿 ・【資料1】本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基 本的な考え方について ・【資料2】本庄市立小・中学校児童生徒数・学級数一覧
主管課	教育委員会事務局教育総務課

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (教育総務課副参事)	本日はお忙しい中、「第4回 本庄市公共施設等マネジメント 推進審議会部会」にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます

	<p>います。私は進行を務めさせていただきます、教育総務課の新井と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に関する対策として、入室時の検温等にご協力いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、報告と配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本庄市公共施設等マネジメント推進審議会規則第2条に基づき、本会議は公開といたします。同規則第3条の規定により、本会議の開催について市ホームページで公表し、傍聴人については定員数5名としてご案内したところ、1名の申し込みがございました。本日につきましては、非公開事項を有する議題はありませんので、傍聴者につきましては手続を行い、入室していただいております。</p> <p>なお、会議録作成のため、事務局にて本会議を録音させていただきます。あらかじめご了承ください。</p> <p>次に、配布資料の確認をさせていただきます。本日、机の上に配布させていただいた資料として、「第4回本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会 次第」「本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会 部会員名簿」、また、事前に送付させていただいた資料として「【資料1】本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方について」、「【資料2】本庄市立小・中学校児童生徒数・学級数一覧」、以上4点となります。資料等の不足はございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(なし)</p> <p>ご確認ありがとうございます。</p> <p>報告や配布資料の確認につきましては、以上でございます。</p> <p>それでは、これより会議を開催させていただきます。</p> <p>進めさせていただく前に、本審議会部会の部会長である松本部会長より、ご挨拶を頂戴したいと思います。松本部会長、よろしくお願いいいたします。</p>
松本部会長	<p>令和4年も残すところあと1週間となりました。この会議も4回目で、皆様には本当にお世話になっております。新型コロナの感染も拡大傾向で、年末から正月にかけて気をつけなければならず、心配な状況もあります。また、我々が関係している小・中学校の適正規模、適正配置という件に関しても、近隣の市町村で大きな変化があったと聞いております。小鹿野町は小</p>

	<p>学校4校を1校に統合し、長瀬町は小学校2校を1校に統合するようです。2019年から2022年4月までの3年間で、437件の統廃合があり、標準学級外の小中学校が該当しています。11学級以下の小・中学校は多くあり、2022年の学校基本調査によると、小学校の約半分の9,458校が標準学級外で、本庄市だけでなく多くの市町村が悩みを抱えている状況です。この現状については、避けるわけにはいかず、正面から向かい合って地域の皆さんとよく相談をしながら進めていくことが大事だと考えているところでございます。審議が難しくなり、佳境に入ってまいりました。皆さんのお知恵を拝借して、スムーズな進行が進められるようお願いを申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局 (教育総務課副参事)</p>	<p>ありがとうございました。 続きまして、次第3「議題」に移らせていただきます。 議題の進行につきましては、「本庄市公共施設等マネジメント推進審議会規則第8条第1項」の規定により、部会長が議長となつて行うこととなっております。これからの議題の進行につきましては、松本部会長をお願いしたいと思います。 松本部会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>議長</p>	<p>会長が会議の議長を行うということでございますので、この後の議題につきまして、進行を務めさせていただきます。会議のスムーズな運営に、どうぞご協力をお願い申し上げます。 それでは、早速、議題に入らせていただきます。 「本庄市立小・中学校の適正規模及び適正配置の基本的な考え方について」、事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (大澤課長補佐) (松島主任)</p>	<p>(資料に基づき説明)</p>
<p>議長</p>	<p>ただいま事務局から説明がございましたが、順に区切って検討していかないと質問も出ないと思いますので、1. 国における適正規模及び適正配置は、国の基準なのでこれでよろしいでしょうか。 (異議なし) それでは2. 本庄市立小・中学校の現状(1)で、標準学級数外と標準学級数内に分けてありますが、ここはいかがでしょうか。 (異議なし)</p>

	<p>2 ページ(2) 標準学級数外の小学校別児童数、学級数の推移で、令和10年度までですから、生まれた子供が反映されています。標準学級数外の6校についてグラフにし、現状を記載している内容なのでよろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは3. 保護者・教員の意向で、前回から変更した部分について先ほど説明がありましたが、もう一度事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (教育総務課副参事)</p>	<p>前回の資料では、③学校統合の検討について、3点記載していましたが、審議の中で、「学校統合の時期に対する質問の回答数の合計を、『統合の検討をすべき』と記載しているのはそぐわない」というご指摘を受けましたので、「保護者及び教員共に『学校統合の検討をすべき』が約7割」という文言を削除し、2点としました。</p>
<p>議長</p>	<p>前回、部会員からご指摘いただいたものを反映させ、削除になったということです。保護者・教員の意向については、よろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>続いて4. 本庄市における適正規模の基本的な考え方、(1)で市の基本的な考え方が示されました。①教育の機会均等確保、②多様な人間関係を育むための学習集団を構成できる規模であること、③一定の教員数の確保が可能な規模であること、の3点です。これは問題ないと思われませんが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>5 ページの(2) 本庄市立小・中学校の適正規模の基本的な考え方、これは国の基準を受けて、本庄市も同等な考え方を持っているということです。ここは、よろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは、6 ページ5. 本庄市における適正配置の基本的な考え方についてです。これまでは規模の話でしたが、先ほどの教育委員会の考え方①②③を受けた形で、今度は適正配置になります。</p>

山田部会員	<p>中段で、「1クラスの人数を減らすのは、新たな財政負担を生じること、教員の質の確保を担保する面で困難である」とありますが、1クラスの人数を20人近くにして学習を行うのがいいと考えています。市のスローガンに「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄」というがあるので、教育の現場としてできるだけ良い形で考えてほしいと思います。子供の人数だけでなく、先生の数も考え、例えば統合することによって先生の数もどれだけ変わるのか、先生が足りないというアンケート結果がある中で、「新たな財政負担がある」とあるが、1クラス25人のできるのではないかと。子供たちを見る環境も打ち出した方がいいので、その辺についてお聞きしたい。</p>
議長	<p>まず、先生の数について説明をお願いします。</p>
事務局 (瀧澤課長補佐)	<p>前回もご意見をいただき、部会長からも説明がありましたが、市町村立学校の教職員については、県が任用権者となり、給与も国の補助を受けて県が全額負担をしています。1学級を20人で編成をとする場合には、公立義務教育学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律で定めている学級編制の標準と異なるため、市独自で教員を採用することが必要となり、継続的な教員の確保がまず大きな課題になります。また、現在、教員志望者の減少がある中で、市で採用する場合、ある程度の教員の質を維持していくことには課題があると考えられます。</p>
議長	<p>学級数について、義務標準法で規定があり、また埼玉県で基準を作り、小規模校には、国よりも手厚く教員を配置しています。 財政負担については、事務局いかがでしょうか。予算の話は難しいと思うので、市費で採用している現状を説明してください。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>市で教員を採用すると、大きな財政負担が生じると考えています。現在、市では、会計年度任用職員として、90人以上の補助員、支援員等を各学校に配置しています。学習補助教員は教員免許状を持ち、授業の補助を1日5時間ほど行います。また、特別支援学級に対する補助、外国人の児童生徒に対する通訳も配置しております。また、教員免許状を有していない方もいますが、学校生活支援員を学校に配置しています。このような会計年度任用職員を配置することで、学校の質の向上、維持を図っている状況です。</p>
議長	<p>学級の人数に関わる教職員のことは、法律があるので単独でやるのは難しいという説明、現在市で予算の範囲内でやっていることを説明してもらいましたが、今後の予算について教育委員会と言うのは難しいと思うので、山田委員いかがでしょうか。</p>

山田部会員	統合することによって、教員も少なくなくて済むと思います。20人がいいけれど、25人にして先生の人数を増やせるかと思います。現場のことはよく分かりませんが、アンケートを見る限り、そこを求める先生方は多いと感じています。統合して教員がいない分で、学級の人数を換えられると思います。困難であるというより前向きに考えれば、統合のメリットが作れると思います。
議長	確かに困難であると記載するより、課題が生じるという感じがいいと思いますが、皆さんいかがでしょうか。
田島副部長	国の基準であれば県から教員が付き、市費の持ち出しがないということです。財源確保が非常に難しいと思いますので、国の基準を満たす内容が最善の方法だと思います。
議長	副部長から「国の標準に沿う形という書き方もある」という意見を出していただきました。お金に関わる内容は教育にはそぐわない部分がありますが、お金のことも避けては通れず、先生を雇うのも校舎を維持するのもお金がかかることですから、避けては通れないことだと思います。もし、1学級の人数を減らすことを本庄市がやっていくとすると、市の負担が増えることを皆さん了解してくださいということになると思います。
事務局 (教育総務課副参事)	ただいまのご意見を踏まえ、国の基準どおりにすることが望ましいこと、また1学級の人数や教員数については財政的に課題があるということで検討したいと思います。
議長	<p>困難というだけではなく、課題があるという表現もあるし、本庄市なりの進め方をすると皆さんに負担を強いることになるという書き方もあると思うので、次回までに検討してください。</p> <p>適正配置の基本的な考え方の(1)1段落目、2段落目が終わりました。3段落目について、中学校は現在の4校体制を維持していくという部分については問題ないと思いますが、ただし書で、小学校の適正配置を検討していく必要があるという部分について、休校の学校もあること等から検討せざるを得ないと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>では(1)は、先ほど山田部会員から出た意見を事務局で検討してください。</p> <p>(2)本庄市立小・中学校の適正配置の基本的な考え方は、今回新たに記載されたものですが、国の適正配置の考え方を受けて示されています。「ただし、地域の実情に応じて、スクールバス等の</p>

	通学手段を検討する」とあるのは、既に本泉小学校がこれに該当しています。
逸見部会員	中学校は、スクールバスはありますか。
事務局 (大澤課長補佐)	中学校はデマンドバスで、乗車券回数券を該当者に渡しています。通学特別号が出ていますが、自転車通学でもバス通学でもよく、また保護者の送迎の場合もあるので、回数券にしています。
議長	<p>本泉小学校区は、小学生は秋平小学校にバスで通い、中学生は児玉中学校にデマンドバスで通い、本庄市教育委員会として既に運用している状況を文言として示したということなので、次に進めます。</p> <p>(3) 適正規模への具体的な進め方について、まず通学区域を見直して適正規模を確保できないか考え、それで規模が確保できなければ統合を検討するという2段階の検討となっています。通学区域を見直すことは、地域の生活圏で長い期間培ってきた近所づきあいや学校との連携が崩れるということで、非常に難しいと思いますが、皆さんはどうお考えになりますか。</p>
飯野部会員	<p>自治会では、朝、会長と何人かのボランティアで子供たちを学校まで毎日送っています。他の自治会と一緒に今までより距離が遠くなったとき、ボランティアは高齢なので大変な面はあると思いますが、子供たちのために続けると思います。</p> <p>この教育委員会の考え方に私は大賛成で、公共施設等マネジメント推進審議会自体が、学校も含めた公共施設全てに関して検討するものだと思うので、部会でもある程度検討していかないといけないと思います。現在の中学校区ごとに分けて統合を検討というのは、ベストな形だと思います。</p>
議長	通学区域を変えながら適正規模になるように検討しても少々無理があると、どうしても統合の方に舵を切らざるを得ない、というのが教育委員会の考えた案ですが、保護者代表の工藤部会員はいかがでしょうか。
工藤部会員	<p>在学中に通学区域の見直しが入ると、今まで一緒に学校へ行っていた子と別の学校になる可能性があり、少し問題があると思います。</p> <p>資料を見て、統合をする形になるだろうと思っていましたが、こういう結論になったとしても、本庄市としてどれだけのことができるのかとか、もっと良い教育環境を整えるためというところで、考えていけたらと思います。</p> <p>何らかの理由があって小規模校を希望する児童を受け入れていることもあるので、全て2学級が本当に望ましいのかなと思います。</p>

	<p>す。また、大きい学級だとなかなか馴染めない子供たちが特別支援学級に流れていくこともあると思うので、学級数を複数配置することで、特別支援学級数が増えていくこともあると思います。</p>
議長	<p>方向的にはやむを得ない面もあるけれども、良い環境を作るといふ部分をもっと打ち出してほしいという意見でした。また、小規模だから良かった部分を残せないか、特に特別支援学級のように少人数で効果を上げている部分があるので、そういう部分を今後どうやって残していくのかという意見について、統廃合で浮いたお金を良い教育環境づくりに活用するという記載もあります。</p> <p>既に統廃合を行ったところでは、図書館を良くして子供たちが本に親しめる環境を作ったり、子供たちの学芸発表ができ、それだけでなく地域の人たちとお互いが交流できるような施設を作ったりしているの、様々な工夫があると思います。そうすると、総合も悪くはないかなという感じもします。</p>
事務局 (参事兼教育総務課長)	<p>現在小学校12校、中学校4校の施設整備などを行い、最近ではGIGAスクール構想の実現等、教育に必要なものには投資しています。</p> <p>今回子供たちの教育環境についての議論の中で、通学区の見直し、統合の検討という具体的な話が出てきていますが、9ページ以降にいろいろなパターンがあり、各メリットとして「集中投資による教育環境の機能向上を図れる」という部分があり、この考え方が重要であると考えています。</p>
議長	<p>統合して良い環境を作っていくことを示せると、子供たちも住民の方々も将来に対し明るい希望が出てくると感じます。</p> <p>(4) 小学校の適正配置について、中学校区ごとに事務局案が示されましたが、本庄東中学校区、本庄西中学校区、本庄南中学校、児玉中学校区ごとに、それぞれ細かく見ていきたいと思います。</p> <p>東中学校区ですが、仁手小学校、藤田小学校、本庄東小学校があり、藤田小学校と仁手小学校を統合しても1学級なので、適正規模を確保できません。地図で見ると4kmを超える所が出てきますが、これは直線で4kmです。実際に子供たちは直線ではなく、巡って安全な通路を歩くので、地図では3.3kmとか3.4kmで、歩くと4kmになること、また、国道17号を渡るので歩道がある所や信号がある所を通ると迂回になることも考える必要があります。この本庄東中学校区の案について、どう考えますか。</p>
山田部会員	<p>どうやって決めていくのか、1年目に統合とか、どのパターンなのかとか、決め方について気になりました。</p>
議長	<p>今後の流れということで、もし統廃合していくのであればどう</p>

	<p>いう道筋で決まっていくのか、部会員は知っておくべき内容だと思います。部会で基本的な考え方の案を作った後、どういう流れになるのか説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (参事兼教育総務課長)</p>	<p>今年度、基本的な考え方を取りまとめていただき、その後審議会の審議を経て、来年度以降、保護者、自治会を中心とした地元、学校運営協議会等の学校関係者などとの協議を行い、丁寧に進めていきたいと考えております。想定ですが、協議に2年程度、協議を終えた後に、実際の準備期間として先生の人事などで3年程度、合わせて5年程度というのが一般的な進め方となっておりますので、本市においてもそれが参考になると考えています。いずれにしても丁寧に進めていきたいと考えています。</p>
<p>議長</p>	<p>本庄東中学校区は、仁手小学校が複式学級で、藤田小学校と合わせても1学級なので、検討時期は早い感じがします。</p>
<p>早野部会員</p>	<p>7ページの(3)適正規模への具体的な進め方の①検討基準は、そのとおりだと思います。ただ、単学級の適正規模の検討を行うスタート時期がすごく難しいと感じていて、部会長がお話した、全小学校の半分が11学級以下であることの理由の一つだと思います。</p> <p>先ほど工藤部会員がお話したとおり、小規模校の良さも確かにあり、児童数だけではない気もします。藤田小学校長3年目ですが、子供たちはとても落ち着いていて、何でも頑張れる地域で、仁手小学校も似たような感じだと思っています。仁手小学校と藤田小学校が合併しても1学級で、人数的な解決には全くならないですが、仁手小学校の子供たちがいきなり本庄東小学校に入ると心配な面があります。仁手小学校と藤田小学校は以前から交流会をしていて、今年は警察音楽隊の演奏を一緒に聞き、子供たちの素晴らしい様子、心温まる様子を見ることができ、良いと思いました。人数の解消ができないからこの考えは外すというのも分かりますが、子供たちは人数だけではない良さがあると思うので、パターンの幅があってもいいと思います。</p>
<p>議長</p>	<p>小規模校の良さや交流会をやる中で、良いものがあるという話でした。いろいろパターンはあると思いますが、一校にしていくという方向は、やむを得ない感じがします。中学校は一緒になる地区ですが、皆さんいかがでしょう。</p>
<p>田島副部会長</p>	<p>これから児童数は増えないですから、3校を1校にするのはやむを得ない、避けて通れない感じがします。ただ、時期的な問題はあります。</p>
<p>議長</p>	<p>時期的な問題ですが、どの学校も大規模改修等いろいろあり、お</p>

	金がかかることも念頭に置かなくてはならないと思います。改修する場合でもどのようにするか、いろいろ考えることがあります。皆さんはどう考えますか。
逸見部会員	本庄市の小・中学校で耐震ができていない所はありますか。
事務局 (関根課長補佐)	旧耐震の建物はありますが、既に耐震補強工事は完了しています。本泉小学校の体育館は、休校中のため未耐震です。
議長	大規模改修も時期があると思うので、説明をお願いします。
事務局 (関根課長補佐)	小学校は、4年間隔で改修計画を立てていて、現時点で決定済みの大規模改修の予定はありません。
議長	<p>大規模改修等の資料も次回用意していただきたいです。児童生徒数の減少だけではなく、改修等も参考にして、お金の無駄がないように時期を考える必要があると思います。予算にも限りがあり、高齢化ですから福祉にも予算が必要になるので、その観点からも我々は考えなくてはいけないと思います。</p> <p>続いて本庄西中学校区に移ります。旭小学校と本庄西小学校ですが、本庄西小学校のエリアは、元々は結構広く、その昔は本庄東小学校と別れ、次に中央小学校と別れた歴史があります。地図を見ると本庄西小学校区は分かれた影響で小さくなってしまい、将来的に単学級になる可能性があります。旭小学校からでも本庄西小学校からでも円で4km圏内に入り、地理的には問題なさそうです。本庄西中学校区の小学校については、本庄東中学校区に比べると統合の検討は差し迫ってはいないと思われませんが、将来的には単学級になるので、進めていかざるを得ない状況といえます。本庄西小学校は昔からの古い学校で、本庄東小学校そして中央小学校へ通学区を分けて小さくなった結果、本庄西小学校の児童数が減少してしまったようです。本庄西小学校と本庄西中学校は並んでいるので、義務教育学校が作れる環境で、9年間の一貫教育等の案があると夢が広がりそうです。</p>
高橋部会員	小中一貫教育を考えると統合を視野に入れやすくなり、ただ単に統廃合するという考え方より、新たに打ち出すという感じで夢があっていいと思います。
議長	<p>小中一貫教育の意見が出たので、検討に加えてほしいと思います。</p> <p>次は本庄南中学校区ですが、すべて適正規模なので、児玉中学校区へ移ります。</p> <p>児玉中学校区は、既に本泉小学校区が秋平小学校に通学していることもあり、非常に広いエリアなので難しい部分がありますが、事務局では3パターン提示しているので、ご意見をいただきたい</p>

	<p>と思います。</p>
田中部会員	<p>パターンなので確定ではないと思いますが、学校の在り方とまちづくりを考えると、秋平小学校と金屋小学校というパターン1で、秋平小学校100人の中で一番多い地域は風洞の40名強、そのうちの8割は児玉南地区、行政区でいうと本町なので児玉小学校のエリアです。既に秋平小学校の4割近くが児玉小学校エリアから来ているので、あまり関係ない金屋小学校より、児玉小学校との関係性の方が高いと思います。</p> <p>まちの形態を考えて、学校をある程度イメージしていく必要があると思うので、お願いでもありますが、選択肢の中にその辺のことも考えて作っていただければと思います。個人的な意見ですが、先ほど松本部長がおっしゃったように、義務教育学校はとて面白いアイデアだと思っています。特に児玉は中学校1校なので、中学校で集まることを考えると、小学校を1校にして児玉中学校と一緒にするというのは、とても良いアイデアだと思います。既に児玉は教育エリアがある程度固まりつつあるので、義務教育学校の話が進んでいく候補を作るのが良いと思います。</p> <p>質問ですが、例えば地域で少人数学校がいいという選択をした場合、その意見は優先されるのでしょうか。工藤部会員や早野部会員がおっしゃったように、少人数の良さはあると思います。地元に着して地元が学校の面倒見て、学校が地元の面倒見るという相互関係は存在するので、地域としてこの学校は残してほしい、例えば、GIGAスクール構想の延長でオンラインを使った授業を充実させ、その場合先生の数を検討するという特区的な選択も含めて地域の意見があったとき、その意見が優先されるものなのかというのが一つです。</p> <p>あと4ページのクラス替えのメリットで、「新たな人間関係を構築する力を身につける、クラス替えを契機として意欲を新たにすることが期待できる」というのがありますが、藤田小学校も秋平小学校もここ何十年もクラス替えがなく、ないがためにデメリットがあつてこういう記述になっていると思います。クラス替えを経験していないことにより、このデメリットが生じた数値的な資料があれば、ご紹介いただきたいと思います。</p>
議長	<p>児玉中学校区の将来ということで、一つの教育地区になりつつあるから義務教育学校というのも一つの手ではないかというのが1点目。地域の声を優先してもらえるのか、具体的には、小規模であっても、地域の人が応分の負担をするという声が上がれば市は対応するのかというのが2点目。クラス替えがないデメリットは</p>

	<p>どんなことかということで、この3点目については先生方にご意見を伺いたいと思います。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>義務教育学校については、研究をしてからご提示させていただければと考えております。</p>
事務局 (参事兼教育総務課長)	<p>小規模学校を残してほしいという地域の意見について対応できるかどうかというご質問ですが、この部会でご審議いただいている内容は、初めに児童生徒の保護者、先生方にアンケートをとらせていただき、ご承知のとおり総論は賛成だけど自分の学校についての各論になると躊躇するようなご意見もありました。本庄市の将来を背負う子供たちの育成にとってどういう教育環境がいかというところで、アンケート結果で出たクラス替えができる学校規模が一つのポイントなので、適正配置を進めるに当たっては、その点を一番の基本的な考えとするのが重要であると考えています。</p>
議長	<p>3点目のクラス替えがないことのデメリットについて、先生方の経験からご意見をお願いします。</p>
早野部会員	<p>先ほど小規模校の良い点をどんな思いで述べたかという、パターン1と2がある中で、パターン1で仁手小学校が最初から本庄東小学校に行くのが心配だったので、パターン3として最初に藤田小学校と仁手小学校が一緒になり、その後本庄東小学校に行く案もあるという思いがあったからです。なので、合併反対という意味ではなく、人数の点では解消されませんが、子供たちの様子を見てそういうパターンもあるのではないかという思いです。</p> <p>クラス替えがないデメリットは、人間関係が固定されるので、小さいときからあの子は頭のいい子、あの子は運動ができる子など、子供たちの中で概念が作られ、挽回できるのに固定されたままになってしまうことです。人間関係で、うまくいかないときやけんかをしたりこじれたりすることがありますが、クラス替えによりそれがずっと続くのではなく、リセットすることができ、新たな気持ちで人間関係を作れるところが、クラス替えのメリットであると感じています。また、いろいろな子に会うといろいろな考えも出てくるし、競争心が出て、向上を目指せる刺激もあります。</p>
議長	<p>校長先生の立場からは、統廃合になって子供たちがどういうふうになるか心配だと思うので、少しずつ変化していった方がいいこともあると思いました。</p>
逸見部会員	<p>来年4月に児玉高校と児玉白楊高校が合併して児玉高校が空くので、そこに小学校を作って児玉の小学校を1校にすれば、小中一貫も考えられるので、一番いいと思います。遠い所はスクールバスにすればいいので、児玉の小中学校を児玉高校の跡地に集めるといいと思います。</p>

議長	<p>児玉中学校区の案が出たので、一つの案として記録しておいてください。先ほどの田中部会員の案で、児玉を一つの教育地区に集中させるという点では、共通した意見だと思います。新しく作り直すのは、どの学校も公平に痛みを伴いますが、新しい所にみんなが入れるという期待感もある一方、いろいろな面でお金はかかりますので、検討課題ということでお願いします。</p> <p>川田部会員から、クラス替えについてお願いします。</p>
川田部会員	<p>早野部会員と同じですが、単学級ですとその中で1年生から人間関係が固定してしまう可能性があります。グループ化というのがありますが、子供たちの今の人間関係の課題は多様化していて、子供たち同士では解決ができないものもたくさんあるので、クラス替えがあるとリセットできます。もう一つ、保護者同士の人間関係もあるので、一度クラスを離れることによって新たな見直しができ、また同じクラスになったときに良い関係に戻れます。以前は2年おきにクラス替えがありましたが、今は毎年クラス替えを行っているということは、クラス替えがあることのメリットだと言えます。そしてクラス替えが行われないデメリットは、人間構築がそのままずっと続き、新たな人間関係を作れないことです。私たちが小・中学生だったときと比べると、いろいろ課題も複雑化しているので、1回リセットする時間はあった方がいいと感じています。また、ずっと1学級の小人数の小学校から中学校でいきなり大きな学校規模になることは、デメリットだと感じています。急激な環境の変化が不登校に直結する可能性もあると感じているので、小学校である程度的人数の中でもまれた経験をして、中学校に行つてさらに大きな環境に変わる方が、環境の変化への適応力という点から子供たちにとっていいと思うので、この辺を考えていく必要があると思います。</p>
山崎部会員	<p>単学級の小学校長時の経験ですが、子供たちは幼稚園・保育園のときから人間関係ができています。校内マラソン大会を例に挙げると、あの子が何番だから私は何番と順位を気にし、自分のタイムがどうかを気にしないので、中学校でどこまで通用するのかが心配でした。固定された関係の中での順位ではなく、タイムならどこに出ても通用すること、またその小学校出身でJリーグに入りプロのサッカー選手になった子がいたので、その子のタイムを目標にしようと話したことがあります。また、小さいときから人間関係が固定して周りの子もわかっているので、何かあっても手厚いサポートをしてくれて居心地よく過ごしますが、中学校に入った途端、学校に行けなくなったりしたことを後から聞いたとき、小学校</p>

	<p>の人間関係がそれでよかったのかと思いました。クラス替えがないと人間関係がうまく作れず、大きな学校に行ったときに大変だなと感じました。小学校では1人の先生がつきっきりで見ることができですが、中学校では多くの先生が多面的に見るので、先生のサポートの面で慣れるという点でも、ある程度人数が多い規模がいいと実感しています。</p>
議長	<p>3人の校長先生からの現場からのご意見でした。他にご意見のある方がいなければ、まとめに入りたいと思います。</p> <p>今日は事務局からかなり細かな案を出していただきましたが、ほぼ皆さんに了解していただいたと思います。</p> <p>ご指摘は、6ページの(1)本庄市教育委員会の考え方の2段落目の表記の工夫です。それから中学校区ごとの検討は問題ないですが、検討時期や、部会員からの意見、具体的には小中一貫教育の意見、将来的な夢を少し入れる意見、児玉地区の教育エリアについての意見、これらを検討していただき、基本的にはこの資料で皆さんのご了解をいただきたいと思います。そして、6ページ以降については継続審議ということでご了解いただけますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(異議なし)</p> <p>それでは、今後の進め方について、事務局に資料の作成をお願いします。もう一つ、大規模改修等の時期がわかる資料の作成もお願いします。</p>
田中部会員	<p>先ほどお願いしたクラス替えのメリット・デメリットで、数値や調査的なものがあれば、見たいのでお願いします。</p>
議長	<p>例えばいじめの解消率や不登校率などでしょうか、そういうものがありますか。</p>
事務局 (学校教育課長)	<p>いじめや不登校を資料に入れると、その因果関係が複雑なものになりますので、一度お預かりさせていただきたいと思います</p>
議長	<p>それでは以上で審議は終了ということで、進行を事務局にお返ししたいと思います。</p>
事務局 (教育総務課副参事)	<p>皆様には長時間にわたり、貴重なご意見、慎重なご審議、大変ありがとうございました。また、議長を務めていただきました松本部長にお礼申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第4「その他」でございますが、今後のスケジュールについて事務局からご連絡がございます。</p> <p>まず、1点目といたしまして、本日の会議の会議録の案につきまして、作成が完了次第、部会員の皆様にお送りさせていただきます</p>

	<p>す。お手数ですが、お手元に届きましたら内容をご確認いただき、記載内容に修正等がございましたら、事務局までご連絡いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>次に、2点目といたしまして、次回の部会につきましては、1月16日、10時からの開催を予定しております。議題内容ですが、本日も審議いただきました適正規模・適正配置の考え方について、ご意見を踏まえて再度作成した資料に基づきご審議いただく予定でございますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局からの連絡は以上です。</p> <p>続きまして、次第5「閉会」にあたりまして、本審議会部会の田島副部長より、ご挨拶を頂戴したいと思います。田島副部長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>田島副部長</p>	<p>本日はお寒い中、お集まりいただきまして本当にありがとうございます。お陰をもちまして本日の審議を終了することができました。ありがとうございました。まもなくお正月が来ます。皆様方におかれましても、健康に十分留意していただき楽しいお正月を迎えられることを祈念いたしまして、閉会の言葉とさせていただきます。本日はありがとうございました。</p>
<p>事務局 (教育総務課副参事)</p>	<p>以上をもちまして、第4回本庄市公共施設等マネジメント推進審議会部会を閉会いたします。本日は、誠にありがとうございました。</p>